

単
元
名

ビブリオバトルに挑戦しよう

教科書出版社名 (東京書籍)

○ 中学校 (1) 年 教科等 (国語)

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

(教科等で付けたい力)

- ・与えられた課題の物語を読み込み、必要な情報文章にまとめる力
- ・共有した情報を元に、プレゼンテーション用の原稿をまとめる力

(学校図書館等の活用で付けたい力)

- ・一つの作品を深く読み込み、その作品について相手にわかりやすく伝えることができる力

○ この単元における学校図書館を活用した情報活用能力の育成に向けて

- 情報収集…与えられた課題の物語を読み込み、必要な情報をメモする。
- 整理・分析…メモを班で共有し、精査していく。
- まとめ・表現・発信…共有した情報を元に、プレゼンテーション用の原稿をまとめていく。

○ 学習の展開 (全5時間) (学校図書館等を活用した時間は☆)

第1次 ☆	第1時間	・ビブリオバトルについて説明をする。 ・実際のビブリオバトルの映像を見せて、イメージを持たせる。 ・各班、課題となる話を読み、どれにするかを決める。
第2次 ☆	第2時間 第3時間	・各班、それぞれの課題の話について発表原稿を作成する。 ・原稿を完成した班から、担当箇所を決めて練習を始める。
第3次	第4時間	・発表順を決める。 ・各班、リハーサルを行い、最終調整をする。
第4次	第5時間	・ビブリオバトル大会の実施 ・単元の振り返り

(本時 1 / 5 時)

☆学校図書館等活用 (本時) の学習

本時のねらい
ビブリオバトルについて学び、単元の目標をたてる。

学習展開

時間 (分)	主な学習活動	指導上の留意点
20	1. ビブリオバトルについて説明を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">班のみんなで協力して、ビブリオバトルに挑戦しよう！</div> <ul style="list-style-type: none">ワークシートを配付し、ビブリオバトルを実施する目的と、ビブリオバトルについての説明を聞く。見本として、中学生ビブリオバトル全国大会のグランドチャンプの生徒の発表映像を見る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">見本の映像の準備をしておく。</div> 映像はあくまで参考であり、全く同じようにする必要がないことを最初に周知しておく。
20	2. 課題となる物語を読み、どの話にするか、班で決める。 <ul style="list-style-type: none">3～4人の発表班を作る。1人1台端末に送られてある話を読み、どの話で行うのかを各班で話しあう。各班からの希望をすり合わせ、発表課題を決定する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・課題となる物語を班の数だけ選定し、内容を1人1台端末に送っておく。</div>
5	3. ビブリオバトル実施についての目標を立てる <ul style="list-style-type: none">ワークシートに記入し、プリントをファイルに綴じる。	
5	4. 次回連絡	

図書館活用
ポイント

図書館活用
ポイント

ビブリオバトルに挑戦しよう！プリント

一年（ ）組 氏名（ ）

○ビブリオバトルとは・・・ひとりひとりが好きな本を持ち寄って書評（書物の内容を紹介しながら批評をした文章）を展開し合うゲーム。
（書評 しゆひやう）

○ビブリオバトルのルール

- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に一人五分間で本を紹介する。※今回は一分半～二分程度)
- ③ それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを二～三分行う。
- ④ 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めた物を『チャンプ本』とする。

○ビブリオバトルのポイント なぜするの？ どんな効果があるの？

一、参加者で本の内容を共有できる（書籍情報共有機能）
最大のメリットは、発表者がオススメの本を発表することで、参加者は知らなかった本と出会うことができる。また、発表者が他のメンバーに知ってほしい情報を共有することも可能。



二、スピーチの訓練になる（スピーチ能力向上機能）

ビブリオバトルでは、上下関係のない対等な関係での多数決投票であるため、納得しやすいフィードバックが得られ、スピーチ能力を改善できる。



三、いい本が見つかる（良書探索機能）

『チャンプ本』になるためには、できるだけ多くの人に「読んでみたい」と思ってもらえる本を探してきて、内容をしっかりと伝えなければならぬ。そこでおのずと他の参加者が興味を持ってくれる本を紹介する方向に行動が変化していき、結果的にはそのコミュニティにとっ
ての良書が集まるようになる。



四、お互いの理解が深まる（コミュニティ開発機能）

書評を通じて自分の考えや意見を主張する機会を得ることになるため、発表者の隠れた人となりや個性、知識、背景に関する相互理解が深まる。これが日常会話のきっかけにもなり、またコミュニティ内でビブリオバトルを繰り返すことで、紹介本の傾向やプレゼンテーションのスタイルが、コミュニティの共通認識として育まれるようになる。

つまり、「人を通して本を知る」だけでなく、

「本を通して人を知る」場であるということ。

○ビブリオバトルの目標を立てよう

みなさん、ビブリオバトルは初めてですか？ 初めてのひともそうでないひとも、チャレンジしてみましょう。
今回のスピーチは後日、小学校にも届けられます。同級生だけでなく、小学生のみなさんも「読んでみたい！」と思うようなチャンプ本を目指してみましょう。



【目標を立てる】はじめのふりかえり

今回のビブリオバトルで、あなたが頑張りたいのはどんなことですか？
このプリントにある「ビブリオバトルのポイント一～四」の内容を取り入れ、目標を文にして書いてみましょう。